

報告**日本天文学会 第9回ジュニアセッション**

室井 恭子（国立天文台）
ジュニアセッション世話人会

2007年3月28日～30日、平塚市の東海大学で開催された日本天文学会春季年会において、「第9回ジュニアセッション」が3月28日に行われました。口頭発表38件、ポスターのみの発表2件、合計40件もの発表がありました。内容も、流星・小惑星、惑星、太陽面通過、太陽、恒星、銀河、環境・観測装置・人工天体など多岐に渡り、今までで最多の発表数となりました。

ジュニアセッションは、中学生や高校生の天文学に関する学習や研究活動の活性化、科学の楽しさを感じてもらうことなどが目的です。そのため、順位付けは行わず、ジュニアセッションにふさわしい内容の申し込みはすべて受け付け、数が多い場合の発表方式を毎回試行錯誤しながら工夫しています。今回は、1つの口頭発表は5分と短いのですが、ポスターセッションの時間を多くとり、発表者と参加者が直接顔を合わせながら議論できるようにしました。

口頭発表の会場には320名ほどの参加者があり、質疑の際には研究者や高校生からするどい指摘やアドバイスをいただき、発表者自身も今後の研究活動の参考になったのではないかと思います（図1）。

また、口頭発表はライブ！ユニバースと東京大学情報基盤センターのご協力によりインターネットで中継されました。今回からインターネット上の掲示板でも質問ができるようになり、それに対する回答も中継されました。

ジュニアセッションでは、天文学に関することならどんな内容でも受け付けていますが、年々レベルの高い発表が増えてきています。もちろん嬉しいことですが、中・高校生にとって気軽に参加しにくい場になっていないかどうか、という懸念もあります。本格的な研究ではないけれど、天文学を楽しんでいるという発表も増えるようにした方がよいのではないか、発表数が多くなった場合何らかの方法で数を限定して1件当たりの発表時間を増やしたほうがよいのかなど、世話人会では第10回目の開催に向けてさまざまな視点で検討しています。

最後になりましたが、口頭発表の座長を務めてくださった皆さま、開催地スタッフの皆さま、ご協力していただいた皆さまに感謝いたします。

室井恭子



図1 口頭発表の会場